



新しいステージで運動と 組織拡大の前進を実現しよう

第30回定期地本委員会

2月16日中央区ブーケ21で第30回地本委員会を開催しました。

■伊藤委員長 われわれの運動は間違っていない。J S労結成に対してJ R総連は様々な難癖をつけてきた。裏に何があるのか、職集であきらかにしてきた。J R総連脱退・除名で区切りをつけ新たな運動を展開しよう。



■淵上本部委員長・産別組織が加盟単組の組織破壊を行ったことに抗議してJ R総連脱退を決意した。・J R総連がJ R東海労を制裁の対象としたのは、J R総連幹部とM組と呼ばれた指導部が決定したことだ。・J R総連東労組指導部は経営陣に管理者のパワハラを止めるようにとお願いしている。・これからの活動は、今まで進めてきた課題をより明確にし、組織化の対象を拡大していく。その一環として労働者支援相談センターを設立する。



経過報告・方針提起のあと質疑では、これまでと違い参加者みんなで意見交換を行い、とても有意義な議論ができました。

●質疑・J R総連は官僚化している。昔の言葉で言うと「ダラ幹」だ。彼らは職場の苦闘に思いが至らない。わかっていればJ S労を否定することはない。彼らにわからせるのは不可能だ。J S労の仲間、OB会とともに闘う。



・闘わない組織はおかしくなる。総連幹部は組合員を守るのではなく組織を守るとなって腐敗してしまった。



・支援相談センターの活動は大変だと思う。しかし出向先でJ Rとは違う労働条件で改善を勝ち取ってきたのだから出来る。

・「ゲバラがJ R総連破壊」というのは、会社に屈服してJ R東海労排除を進めたことをごまかすための口実だ。



●土川書記長 いかにもJ R総連が変質してしまったのかが明確になった。J R東海労は変わってない。新しいステージでがんばろう。久しぶりに定中代議員となった仲間の発言は、多くの仲間から賞賛された。現役組合員・再確立されたOB会一緒に闘っていこう。

★スペースの関係で発言者全員の写真は掲載出来ませんでした